

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
金沢ウエディング・ビューティー専門学校	平成22年12月9日	竹川 正則	〒920-0031 石川県金沢市広岡1丁目1番15号 (電話) 076-221-5757																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人大原学園	昭和54年4月1日	中川 和久	〒101-0065 東京都千代田区西神田1丁目2番10号 (電話) 03-3292-6266																															
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																													
文化・教養	文化・教養専門課程	トータルビューティー学科		平成25年文部科学省 認定	-																													
学科の目的	本校は教育基本法および学校教育法に基づき、マナー指導はもちろん、ビューティーに関する教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することを目的とする。																																	
認定年月日	平成27年2月17日																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																												
2年	昼間	1,700	420	570	930	0																												
						0																												
						時間																												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																													
80人	29人	0人	4人	6人	10人																													
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP (Grade-Point)を与える。																														
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏期休業:校長が別に定める ■冬期休業:校長が別に定める ■春期休業:校長が別に定める ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	卒業の認定は、修業年限以上在学し、1700時間以上を履修し、かつ定められた授業科目及び単位数(62単位)を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。 進級の認定は、各学科の各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。																														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 保護者への連絡および通知 卒業・進級条件及び欠席となっている事情を考慮して個別指導等を行っている。		課外活動	■課外活動の種類 地域イベント活動 ■サークル活動: 無																														
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 就職先:TBCグループ(株)、ウナミ企画、(株)エスクリマネジメントパートナーズ 業界:ブライダル関係業界、ビューティー関係業界 他 ■就職指導内容 全体指導によるレクチャー 個別面接トレーニングなど ■卒業者数 : 4 人 ■就職希望者数 : 4 人 ■就職者数 : 4 人 ■就職率 : 100.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100.0 % ■その他 (令和 2 年度卒業生に関する 令和3年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定エステティシャンセンター試験</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>ネイリスト技能検定(2級・3級)</td> <td>③</td> <td>4人・4人</td> <td>3人・4人</td> </tr> <tr> <td>ジェルネイル検定(中級・初級)</td> <td>③</td> <td>4人・4人</td> <td>4人・4人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定(3級)</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>アロマセラピー検定(1級)</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>サービス接遇検定(準1級・2級)</td> <td>③</td> <td>0人・4人</td> <td>0人・4人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 特になし			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	認定エステティシャンセンター試験	③	4人	4人	ネイリスト技能検定(2級・3級)	③	4人・4人	3人・4人	ジェルネイル検定(中級・初級)	③	4人・4人	4人・4人	色彩検定(3級)	③	4人	4人	アロマセラピー検定(1級)	③	0人	0人	サービス接遇検定(準1級・2級)	③	0人・4人	0人・4人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																															
認定エステティシャンセンター試験	③	4人	4人																															
ネイリスト技能検定(2級・3級)	③	4人・4人	3人・4人																															
ジェルネイル検定(中級・初級)	③	4人・4人	4人・4人																															
色彩検定(3級)	③	4人	4人																															
アロマセラピー検定(1級)	③	0人	0人																															
サービス接遇検定(準1級・2級)	③	0人・4人	0人・4人																															
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0.0 % 令和2年4月1日時点において、在学者21名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者21名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による定期面談(本人および保護者)																																	
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制(有)無 ①試験による特別奨学生制度:がんばる人を支援するために「試験による特別奨学生制度」を実施しています。この制度は、大原独自の特別奨学生試験の結果に応じて入学金・授業料の全額または一部を免除するものです。 ②資格・クラブ活動による特別奨学生制度:がんばる人を支援するために「資格・クラブ活動による特別奨学生制度」を実施しています。この制度は、大原学園入学までに取得した資格や成績を一定のランクに認定し、そのランクに応じて入学金・授業料の全額または一部を免除するものです。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象)																																	
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無)																																	
当該学科のホームページURL	https://www.o-hara.ac.jp/hokuriku/senmon/kanazawa_beauty_bridal/beauty/																																	

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就業先である化粧品メーカー・ネイルサロン・エステサロン・美容室等と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②ビューティー分野における学修の中心となるヘアメイク知識、ネイル業界、エステティックの知識、その他ビジネススキル等の教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

①位置づけについて

教務部(課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。また、委員会での協議結果は当校該当学科の教育課程編成にも活用していく。

②意思決定の過程について

(ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。

(イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。

(ウ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、教務部長が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
竹川 正則	金沢ウエディング・ビューティー専門学校 校長		
金子 秀安	金沢ウエディング・ビューティー専門学校		
松本 府美江	金沢ウエディング・ビューティー専門学校 副校長		
廣坂 由美	金沢ウエディング・ビューティー専門学校		
廣瀬 宝秀	公益財団法人 日本ネイリスト検定試験センター	令和2年4月1日 ~ 令和4年3月31日(2年)	①
大門 享雅	株式会社 ザ・フォルビ	令和2年4月1日 ~ 令和4年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(8月、12月)

(開催日時)

第1回 令和2年8月7日 14:30～15:30

第2回 令和2年11月27日 14:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記

①今年度の教育課程編成委員会にあたり、教育内容全般に対して意見を頂く。特に「インターンシップ」「就職前のサロンワーク実習」などに関する最新情報と顧客ニーズの捉え方などを企業等の委員より情報提供頂く。

②委員の意見に基づき、カリキュラム・教材および実習内容に取り入れるための改定を進める。特にサロンワーク授業の強化、実践的な技術を習得するため、練習の重要性を意識付けし、授業の中でも練習回数を増やすことができる内容に改善。

■身につけるべきスキル(エステ・メイク・ネイル)とその習得方法→学内外のお客様に簡単な施術を行う機会を作成した。

■身につけるべきビジネス、ヒューマンスキルとその習得方法→実務家による講演会の実施と継続。

③上記②の改定内容は、第2回委員会にて確認を行い、今年度の教育課程編成を完了。また次年度以降のカリキュラム内容の充実を図るため、「基本的なコミュニケーション力の向上のための指導強化」「インターンシップ・サロンワーク指導の更なる充実」について意見をいただき、検討課題とした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①ビューティー分野における実習・演習は、教育社会福祉分野、工業分野等の分野と異なり、企業等との連携の下、学内で行なわれる学習科目が多いことを考慮して、実習・演習の組立を行なう。
- ②企業等との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。
- ③企業等から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等の実務の視点から評価を仰ぐ。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ベーシックメイクアップ、アドバンスメイクアップ、ヘアスタイリング、ベーシックネイル、アドバンスネイルの授業運営に関して企業等と協定書を締結、打合せを行い、下記の4点について講義内容の質向上のために連携している。

- ① 実習授業内容構築へのサポート
- ② 当該実習授業における評価ポイントの確認
- ③ 授業方法に関する教員への指導
- ④ 学生の学修習熟状況の評価

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
ベーシックメイクアップⅠ ベーシックメイクアップⅡ	スキンケア、ベースメイク、ポイントメイクと段階を踏んで学習する。相モデルで技術者とお客様の立場で実習することで実践的な技術を身に付けることを目的とする。	GIGI 塚田 末子
ベーシックネイルⅠ ベーシックネイルⅡ	ネイルケア、カラーリング、アート、リペアなどの技術を身に付けることを目的とする。実践的にトレーニングを行うことにより、ネイリスト資格取得に向けた技術の向上を図る。	武内 陽子
アドバンスメイクアップⅠ アドバンスメイクアップⅡ	テーマに合わせたメイクや和装メイク、ブライダルメイク、撮影やショーメイクなどを習得することで技術の向上を図り、実務での対応範囲を広げることを目的とする。	GIGI 塚田 末子
アドバンスネイルⅠ アドバンスネイルⅡ	3Dアート、スカルプチュア、ジェルネイルの技術を身に付けることを目的とする。カウンセリングを含めサロンワークを実践的に学ぶ。	武内 陽子
ヘアスタイリング	撮影・ショーやブライダルなど、洋装・和装のヘアスタイリングができる技術を身に付けることを目的とする。実践的にトレーニングを行う。	GIGI 塚田 末子

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規定に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。

「大原学園 教職員研修規程」の目的に定めるとおり、教職員が専攻分野に関する知識・技能・企画力・判断力等を高めるための環境を整備し、所属長の指示または本人の意志により、公平に研修等を受講する機会を与えるものとする。校内、校外において学園が企画する研修は下記のとおり。

- ①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修
- ②大学教授等専門分野に特化した講師として招いた研修会の実施
- ③学内に設置される附帯教育講座を利用した自己啓発

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名 「日本メイクアップ技能検定試験の手技確認」

講師：一般社団法人JMA

期間：令和3年8月3日(火) 対象：ビューティー教員

内容：検定試験の試験官を行うにあたり、採点方法を他の試験官と統一する。またコロナ禍でも実習可能なアプリを使用したメイク教材の使用方法を理解する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名 「違法薬物乱用防止の理解・対応」(連携企業等：石川県庁薬事衛生課)

期間：令和2年8月21日(金) 対象：教員

内容：教員の知識が乏しく対応が難しい違法薬物乱用防止の理解・対応について学ぶ

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等
検討中

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名 「人権啓発企業研修会」(連携企業等: 石川県総務課人権推進室)
期間: 令和3年7月29日(木) 対象: 教員
内容: 教員の知識が乏しい人権について正しく理解する

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	① 理念・目的・育成人物像は定められているか。 ② 学校の特色はなにか。 ③ 学校の将来構想を抱いているか。
(2) 学校運営	① 運営方針は定められているか。 ② 事業計画は定められているか。 ③ 運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④ 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤ 意思決定システムは確立されているか。 ⑥ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3) 教育活動	① 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ② 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③ カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④ 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。 ⑤ キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥ 授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦ 育成目標に向け授業を行なう事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧ 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨ 資格取得の指導体制はあるか。
(4) 学修成果	① 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ② 資格取得率の向上が図られているか。 ③ 退学率の低減が図られているか。 ④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
(5) 学生支援	① 就職に対する体制は整備されているか。 ② 学生相談に関する体制は整備されているか。 ③ 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥ 学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦ 保護者と適切に連携しているか。 ⑧ 卒業生への支援体制はあるか。
(6) 教育環境	① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ② 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③ 防災に対する体制は整備されているか。
(7) 学生の受入れ募集	① 学生募集活動は、適正に行なわれているか。 ② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③ 入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④ 学納金は妥当なものとなっているか。

(8) 財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9) 法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

今年度の学校関係者評価委員会にあたり、卒業生の社会適応能力について多くの意見を頂いたため、コミュニケーション能力、組織への適応について、日々の学生指導においてこれまで以上に強く意識していくことを確認した。クラスでの担任の指導はもちろんのこと、全員参加の各種学校行事やクラブ活動を通じて、社会適応能力を高める環境を積極的に提供していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
鹿野 宏志	なし	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	前校長
小山 康晴	株式会社小林太郎鉄工所	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

公表時期: 令和3年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。
- ②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。
- ③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①学校の概要 ②目標・方針・特色 ③所在地、連絡先 ④学校の沿革
(2) 各学科等の教育	①カリキュラム、時間割、目指す資格 ②検定、資格取得・検定試験合格実績 ③卒業生の進路
(3) 教職員	各学科の担当教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学習や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7) 学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等の紹介
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	留学生の募集
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

5. 情報提供

URL:<http://www.o-hara.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程トータルビューティー学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			サービス接遇	基本的なビジネスマナーや接客対応で必要とされる基本業務を身に付けることを目的とする。ケース別ロールプレイングを取り入れ、トレーニングを行う。	1・後	60	2	○	△		○		○		
	○			WORD基礎	ビジネス文書などの作成により実務に役立つパソコン能力を身に付ける。Wordを活用し資格取得に向けた実技能力向上を目的とする。	1・後	30	1		○		○		○		
	○			一般教養Ⅰ	ビジネスに必要な能力を身に付けることを目的とし、日常的に利用する漢字能力なども身に付ける。ビジネスで一般に使用される熟語は勿論のこと、四字熟語や慣用句なども学ぶ。	1・前	30	1		○		○		○		
	○			一般教養Ⅱ	ビジネスに必要な能力を身に付けることを目的とし、日常的に利用する漢字能力なども身に付ける。ビジネスで一般に使用される熟語は勿論のこと、四字熟語や慣用句なども学ぶ。	1・後	30	1		○		○		○		
	○			キャリアデザインⅠ	自己分析や業界・企業・職種研究を基に、自己PR、志望動機など履歴書やエントリーシートの作成に始まり、一般常識、SPIなどの筆記対策や面接試験対策を行う。	1・後	30	1		○		○	○	○		
	○			接客マナー実践	基本的なビジネスマナーや接客対応で必要とされる基本業務を身に付けることを目的とする。ケース別ロールプレイングを取り入れ、トレーニングを行う。	2・前	30	1		○		○		○		
	○			EXCEL基礎	ビジネス資料などの作成により実務に役立つパソコン能力を身に付ける。Excelを活用し資格取得に向けた実技能力向上を目的とする。	2・後	30	1		○		○		○		
	○			一般教養Ⅲ	ビジネスに必要な能力を身に付けることを目的とし、日常的に利用する漢字能力なども身に付ける。ビジネスで一般に使用される熟語は勿論のこと、四字熟語や慣用句なども学ぶ。	2・前	30	1		○		○		○		
	○			キャリアデザインⅡ	自己分析や業界・企業・職種研究を基に、自己PR、志望動機など履歴書やエントリーシートの作成に始まり、一般常識、SPIなどの筆記対策や面接試験対策を行う。	2・前	30	1		○		○	○	○		
	○			ベーシックメイクアップⅠ	スキンケア、ベースメイク、ポイントメイクと段階を踏んで学習する。相モデルで技術者とお客様の立場で実習することで実践的な技術を身に付けることを目的とする。	1・前	60	2	△	△	○	○			○	○
	○			ベーシックメイクアップⅡ	スキンケア、ベースメイク、ポイントメイクと段階を踏んで学習する。相モデルで技術者とお客様の立場で実習することで実践的な技術を身に付けることを目的とする。	1・後	60	2		△	○	○			○	○
	○			ベーシックエステティックⅠ	フェイシャル、ボディ、脱毛の知識と基本的な手技を身に付けることを目的とする。実践的にトレーニングを行う。	1・前	90	3	△	△	○				○	
	○			ベーシックエステティックⅡ	フェイシャル、ボディ、脱毛の知識と基本的な手技を身に付けることを目的とする。実践的にトレーニングを行う。	1・後	60	2		△	○				○	
	○			ベーシックネイルⅠ	ネイルケア、カラーリング、アート、リペアなどの技術を身に付けることを目的とする。実践的にトレーニングを行うことにより、ネイリスト資格取得に向けた技術の向上を図る。	1・前	90	3	△	△	○	○			○	○
	○			ベーシックネイルⅡ	ネイルケア、カラーリング、アート、リペアなどの技術を身に付けることを目的とする。実践的にトレーニングを行うことにより、ネイリスト資格取得に向けた技術の向上を図る。	1・後	60	2		△	○	○			○	○
	○			メイクアップ演習Ⅰ	セッティングからスキンケアの細かい指の動き、メイクアップテクニックの仕上がりの確認ポイントなど、検定資格合格に向けた技術を指導する。	1・前	60	2	△	○		○		○		
	○			メイクアップ演習Ⅱ	セッティングからスキンケアの細かい指の動き、メイクアップテクニックの仕上がりの確認ポイントなど、検定資格合格に向けた技術を指導する。	1・前	60	2	△	○		○		○		
	○			エステティック概論	エステティックに関する基礎的な知識を習得させ、エステティックの本質と現状を知ることによってエステティシャンとしての社会的な役割と基本的な心構えを育てる。	1・前	30	1	○			○		○		
	○			皮膚科学	皮膚は私たちの身体を守るバリアとして体表面全体を覆う最大の臓器であり、紫外線や感想などの影響を防ぎ身体内部のホメオスタシスに大きな役割を果たしていることを理解する。この皮膚の働きと仕組みを理解し、美しく健康に保つためのスキンケア方法を学ぶ。	1・後	60	2	○			○		○		
	○			栄養学	食物の栄養素と健康の関係を知ることでエステティック施術後の良い状態を保つためのアドバイスに応用できるように指導する。	1・後	30	1	○			○		○		
	○			アロマセラピー基礎	リラクゼーションやスキンケアで活用されるアロマの安全な楽しみ方、活用法、歴史、文化など広く学ぶ。資格取得を目的とする。	1・後	30	1	○	△		○		○		
	○			色彩概論	色彩検定3級程度の基礎知識を身に付けることを目的とし、商品やデザインへの応用方法なども学ぶ。	1・前	30	1	○			○		○		
	○			色彩応用	色彩検定3級程度の基礎知識を身に付けることを目的とし、商品やデザインへの応用方法なども学ぶ。	1・前	60	2		○		○		○		

24	○	パーソナルカラー基礎	色の持つ力を上手く利用して、その人の魅力を十分に引き出す知識とセンスを身に付けることを目的とし、身の回りにおける色の重要性を学ぶ。	1・後	60	2	○	△	○	○				
25	○	アドバンスメイクアップⅠ	テーマに合わせたメイクや和装メイク、ブライダルメイク、撮影やショーメイクなどを習得することで技術の向上を図り、実務での対応範囲を広げることを目的とする。	2・前	60	2		△	○	○			○	○
26	○	アドバンスメイクアップⅡ	テーマに合わせたメイクや和装メイク、ブライダルメイク、撮影やショーメイクなどを習得することで技術の向上を図り、実務での対応範囲を広げることを目的とする。	2・後	60	2		△	○	○			○	○
27	○	アドバンスエステティックⅠ	肌の状況に合わせた化粧品選択、施術選択ができるようになることを目的とする。カウンセリングも含め、実践的にトレーニングを行う。	2・前	90	3		△	○	○			○	○
28	○	アドバンスエステティックⅡ	肌の状況に合わせた化粧品選択、施術選択ができるようになることを目的とする。カウンセリングも含め、実践的にトレーニングを行う。	2・後	60	2		△	○	○			○	○
29	○	アドバンスネイルⅠ	3Dアート、スカルプチュア、ジェルネイルの技術を身に付けることを目的とする。カウンセリングを含めサロンワークを実践的に学ぶ。	2・前	60	2		△	○	○			○	○
30	○	アドバンスネイルⅡ	3Dアート、スカルプチュア、ジェルネイルの技術を身に付けることを目的とする。カウンセリングを含めサロンワークを実践的に学ぶ。	2・後	60	2		△	○	○			○	○
31	○	ヘアスタイリング	撮影・ショーやブライダルなど、洋装・和装のヘアスタイリングができる技術を身に付けることを目的とする。実践的にトレーニングを行う。	2・前	30	1		△	○	○			○	○
32	○	ビューティープランニング	ネイル、ヘアメイク、パーソナルカラー、カラーコーディネートの知識・技術を駆使して、トータルコーディネートする。美容業界で即戦力となるためのスキルを身に付けることを目的とする。	2・後	90	3		○	○	○			○	○
33	○	生理解剖学	人の新他の最小単位である細胞の持つ様々な構造と働きを理解する。そして、細胞・組織・器官・個体、どのレベルをとってもそれぞれの働きに応じた作りが対応していることを理解する。人体の仕組み構造と働きの基本を理解し、そのうえでエステティック施術を正しく行うために必要な骨格・筋肉・血管・リンパ・神経についてはさらに一歩踏み込んで学ぶ。	2・前	30	1	○			○			○	
34	○	応用美容理論	人間の身体の知識や皮膚の構造、化粧品成分や栄養学など、美容業界で欠かせない知識を身に付けることを目的とする。エステティックの資格取得に必要な知識も合わせて学ぶ。	2・後	30	1	○			○			○	
35	○	着付実習	きもについての知識を身に付けることを目的とする。浴衣の着装から普段着の着装、帯結びなどを実践的にトレーニングすることにより、きもの種類と着こなし、必要な小物や名称、たたみ方に至るまでを学ぶ。	2・後	60	2		○		○			○	
36	○	パーソナルカラー応用Ⅰ	色の持つ力を上手く利用して、その人の魅力を十分に引き出す知識とセンスを身に付けることを目的とし、身の回りにおける色の重要性を学ぶ。	2・前	30	1	○	△		○			○	
37	○	パーソナルカラー応用Ⅱ	色の持つ力を上手く利用して、その人の魅力を十分に引き出す知識とセンスを身に付けることを目的とし、身の回りにおける色の重要性を学ぶ。	2・後	30	1	○	△		○			○	
38	○	テクニカルメイク	ヘアメイクの技術の向上と美容業界で働く人材の養成を目的とする。実践的にトレーニングを行い対応能力も身に付ける。	2・後	30	1		△	○	○			○	○
39	○	テクニカルネイル	ネイルの技術の向上と美容業界で働く人材の養成を目的とする。実践的にトレーニングを行い対応能力も身に付ける。	2・後	30	1		△	○	○			○	○
40	○	トータルエステティック	エステティックの技術の向上と美容業界で働く人材の養成を目的とする。実践的にトレーニングを行い対応能力も身に付ける。	2・後	30	1		△	○	○			○	○
合計					40科目		1,920単位時間(64単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
(試験等) 1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出により評価する。なお、本校において必要と認められた場合に限り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験を受験しなかった者に対して行う。再試験は試験等受験の結果、不合格になった者に対して実施する。 2. 各授業科目の成績評価方法については別に定める。 (学業成績) 1. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は60点以上、可は50点以上、不可は49点以下とする。(秀、優、良、可を合格、不可は不合格とする。) 2. 授業科目の成績は、前項の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP(Grade-Point)を与える。 (単位の授与) 授業科目を履修し、各科目の成績を判定のうえ、秀、優、良、可を取得した学生には所定の単位を与える。 (他の大学、専修学校等における授業科目の履修等) 1. 教育上有益と認める時は、校長の認めるところにより、他の大学、専修学校における授業科目の履修を、本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。 2. 本校専門課程における授業科目の履修とみなすことができる単位数は、転学等の場合を除き、本校専門課程の修了に必要な単位数の2分の1を超えないものとする。 (卒業の認定) 1. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、1700時間以上を履修し、かつ定められた授業科目及び単位数(62単位)を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	22週	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。